

教職課程見直しに係る 教員養成フラッグシップ大学推進委員会からの提案

【総論】

- フラッグシップ大学で開発されている科目の内容やカリキュラム編成の考え方は、教員として必要とされる資質能力や教職として学ぶべき内容が多様化かつ高度化していることを表していると考えられる。
- 教職課程を見直すに当たっては、単に必要な単位数を減らすのではなく、フラッグシップ大学の取組を踏まえて、学ぶべき内容を加えたり、学生の学びが加速するような科目間の接続、多様な選択科目や学外における教育体験活動も含めたトータルの学びの在り方を考えたりすることにより、学生の履修負担を減らしつつ一層の学習効果が上がるようにすることが重要。
- 将来、教師として学校現場で指導するには学生自身が「主体的・対話的で深い学び」を体験していることも重要であり、各大学での「学習者中心の授業」の授業形態を講義ではなく学習者中心のものにするなど、「学び方」自体も教育内容に応じた効果的な形態に変えていくことが重要。

【既存科目の見直し】

- フラッグシップ大学において、以下の取組例がある。
 - ・ 小学校の各教科の指導法の科目では、教科毎に指導案の作成や模擬授業などを行うのではなく、各教科に共通する内容を扱う科目を開設して取り扱う例
 - ・ 教職課程コアカリキュラムの定める最低限の内容を満たす科目を必修科目とした上で、大学の強みや学生の関心に応じた発展的内容を選択科目とする例
 - ・ 科目の内容の見直しと併せて、二学期制（15回2単位）を四学期制（8回1単位）に見直すことにより教育内容の厳選や濃縮を行う例
- このような取組を踏まえ、全ての教職課程で共通的に学ぶべき内容を教職課程とし、これに選択的に学ぶ内容が各大学の特色により加えられるような余白を設けることが、多様な専門性を有する教職員集団を形成する上で重要。

【加えるべきと考えられる内容】

- 学校が対応する課題が複雑化・困難化するとともに、保護者や地域から学校や教師に対する期待が高まる中で、教師をとりまく環境が厳しくなっていることを踏まえ、教育環境を改善するとともに、教師自身がストレスへの対処や自己の状態を把握し管理する能力を身に付けることも重要。

- 特別な支援を必要とする児童生徒や特定分野に特異な才能のある児童生徒、日本語指導が必要な児童生徒、貧困を抱える児童生徒等の多様化・複雑化する課題にきめ細かく対応するためには、学校内外の関係者・関係機関と適切に連携していくこと、教師自身が多様性を尊重し共生社会の一員として様々な違いを包摂していく価値観や一人一人の良さを認め対応する技術を身に付けることが重要。
- 今後は単に指導案を作成できるということよりも、目の前の子どもたちの実態を踏まえて、集めた指導案の中から適当なものを判断し担当児童生徒の実態に応じて修正する能力や単元やカリキュラムをうまくデザインできる能力、児童生徒の評価や成績等の教育情報を効率的に管理し活用できる能力等が重要。

【カリキュラム編成の理念の実現】

- 国の定める法令等の要件を満たすことに加えて、各大学の教職課程全体で育成する学生像や理念の上に個々の科目が開設されるようにすべきであり、理念と科目をつなぐための課程の編成や履修指導が重要。
- また、理念を実現するためには、学生の入学時の学力や興味・関心、科目の履修状況等に応じた配慮や指導が重要。